

2024年度公益財団法人東京陸上競技協会の総括

2024度は、多くの競技会やイベントを開催する中で、2025年度に開催される、東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025に向けての準備の年でもありました。

2023年度に掲げた、「一人一人が主人公 魅力ある東京を目指して」の大目標の基に、競技者と指導者、保護者、サポーター、審判員の皆さま一人ひとりが、競技会や普及強化活動を通じて、更なる喜びや達成感を分かち合える環境作りをしてまいりました。

具体的には、選手の皆さん、特に子どもたちが陸上競技に接していく上で、「夢」や「希望」そして「目標」をもって活動していただけるよう、次のような活動に取り組みました。

主に東京出身の、オリンピックや世界陸上など国際大会を経験したトップアスリートをお迎えして、小中学生の競技会ではプレゼンターとして、小学生の体験教室ではデモンストレーターや指導者として、競技会やイベントを盛り上げていただきました。各会場では写真撮影やサイン会なども行われました。この試みは、目を輝かせていた子どもたちだけでなく、保護者や指導者の皆さま、会場にお越しの皆さまにも大変ご好評でした。

また、世界陸上やデフリンピックなどの国際大会を控え、一人でも多くの審判員の皆さまが、国際大会の審判員として活躍できるよう、競技運営委員会が中心となりいち早くNAR（旧 level 1）の資格導入をし、普及に務めてきた結果、2024年度には多くの方々に積極的に取得していただきました。

さて、総括に移ります。

今年度も主催・主管・協力大会の実施やt o t oの助成金の増加、新規登録の審判員の増加、指導者育成事業を通じた指導者の発掘育成等の活動、競技会の増加やご協賛企業の方々からのご支援を通じて、協会の収益は増益となりました。

そして、東京選手権・元旦競歩をはじめとして、日本陸連主催大会や各地区で開催されたマラソン大会等の実施をはじめ、小さなお子さんからご高齢の皆さま、障がいを抱えた皆さまを含めた、誰もが陸上競技の場を通じて、記録の更新や競い合いを楽しんでいただける競技会やイベントを行ってまいりました。そして参加者も増加しております。

また、前述いたしましたとおり、国際大会を控えて、審判講習会受講者と審判資格取得者が増加するとともに、指導者に必要な指導者資格を新規に取得する皆さまも年々増え、あらゆる角度から陸上競技に参加する皆さまが活動する場となっています。

◇陸上競技審判員・指導者に必要な資格の取得者数◇

（JAAF公認審判員資格取得者）

新規B級審判取得者	実施回数7回	98名
-----------	--------	-----

（JSPO・JAAF公認指導者資格取得者）

コーチ3（公認コーチ）	同 1回	東京陸協推薦者 3名
コーチ1（ジュニアコーチ）	1回	59名

スタートコーチ	4回	86名
◇NAR (National Athletics Referee) 取得者 (修了者)		133名
◇審判・指導者資更新者数◇		
JAAF公認審判員	実施回数 17回	1,492名
JSP〇/JAAF公認指導者	同 3回 (4年間で更新)	39名

東京都の派遣事業としての、諸大会の結果は次の通りとなります。各大会の結果は昨年度を上回ることにはできませんでしたが、これまでの指導体制を見直して、普及強化委員会のスタッフを教員・実業団・クラブチームの指導者とまんべんなく織り交ぜて、バランスを整えて活動をはじめたことは、今後の東京都の発展に大きな財産となりました。

◇都道府県対抗大会及び東京陸上競技協会派遣大会の成績◇

(都道府県対抗大会)

◎第78回国民スポーツ大会 (SAGA2024)

天皇杯 (男女総合) 第7位 81.5点

皇后杯 (男女総合) 第8位 36.5点

◎第39回東日本女子駅伝大会 (本年をもって終了)

第3位 2時間19分52秒

◎皇后盃第42回都道府県対抗女子駅伝競走大会

第14位 2時間20分13秒

◎天皇盃第29回都道府県対抗男子駅伝競走大会 第8位

(派遣大会)

◎第13回東日本道府県小学生交流大会 (函館開催)

※東京都チームはコロナ禍以降、大会に復帰参加

◎第40回全国小学生陸上競技交流大会

・優勝 1名 ・第2位 1名 ・第4位 1名 ・第8位 1名

◎U16都道府県代表リレー

男子チーム 第3位 女子チーム 予選

次年度に向けての課題については、次の二つを重点として取り組みます。

一つが、コロナ禍以降伸びていない東京登録者会員を増やしていく取り組み。もう一つが事業開発を更に進め、財政安定化を図ることです。

多くの協賛企業やサポーター方々の協力やご支援のもと、日本を代表する選手のみならず、陸上競技を愛する選手・指導者・愛好家と競技会に関わる審判員の更なる増加にもつながります。

陸上競技を支えてくださる皆さまが増えていくことで、競技会は盛り上がり、東京都の選手が活躍することで、陸上競技のファンも増え、よりイベント性の高い競技運営をすることで、陸上競技の発展に公益財団法人東京陸上競技協会は寄与して行く所存です。

公益財団法人東京陸上競技協会 2024年度 総務委員会 活動報告

総務業務活動

1. 定款・諸規定の検討

評議員及び役員選出規程	(2024年12月13日	理事会にて承認)
	(2025年3月14日	理事会にて承認)
栄章規程・栄章規程に関する内規	(2024年12月13日	理事会にて承認)
職員給与規程	(2024年5月29日	理事会にて承認)
	(2024年12月13日	理事会にて承認)
就業規則・細則	(2024年12月13日	理事会にて承認)

2. 会議・委員会の開催

2024年10月19日(土)

(1) 加入団体懇談会資料準備

2024年10月21日(月)

(1) 加入団体懇談会受付及び参加

管理業務活動

1. 2024年度新規加入・退会累計

	正会員	准会員	准団体	計
2023年度				
2024/2/5現在	255	189	19	463
新規加入(1)	2	3	1	6
新規加入(2)		3	1	4
新規加入(3)	2	2		4
新規加入(4)		5	1	6
新規加入(5)	2	1		3
新規加入(6)		1	1	2
新規加入(7)		1		1
新規加入(8)				0
新規加入(9)				0
新規加入(10)				0
				0
(小計)	6	16	4	26
				0
脱会(4次)		2		
脱会(累計)		3		
(計)	261	202	23	486

2024.11.13

1. 2024 年度賛助金募集活動

引き続き、記念品を手交しながら、講習会場での対面による、伝統的な募集を、実施した。

又、永年の課題であった賛助会HPの更新を行なうことが出来ましたし、財務メンバーリストの活用で漸く事務局とのコミュニケーションが図れるようになった。

しかしながら、会員の高齢化が進んだこと、賛助会へのモチベーション不足等もあり税額控除更新基準には大幅未達状況にある。このような状況・状態から脱皮するため、賛助会事業は東京陸協の活動事業の一つであるとの認識を持って運営するのが喫緊の課題である。

実績:64 件 742,000 円

2. 2024 年 12 月 24 日の財務委員会打ち合わせ

・東京都立入検査について

基本的には3年周期で行なわれるが、かなり遅れている。実施期日の1ヶ月前に案内がある予定。

・2025 年 4 月から「公益法人制度」が変わる。

① 財務規律の柔軟化・明確化(より自由な資金活用)

収支相償原則・有休財産規則が変わる。

② 行政手続きの簡素化・合理化

③ 自律的ガバナンスの充実、透明性向上

外部理事・監事の導入 3 区分経理(公益事業・収益事業、法人運営)の原則

3. 2025 年度講習会活動

今回は、賛助金募集活動と物販を担当した。

2/22 武蔵野市総合体育館

3/1 青梅市文化交流センター

3/8 港区スポーツセンター

3/9 立正中学・高校「行学ホール」

3/15 港区スポーツセンター

3/22 東京陸協 ①19:00~11:00 ②12:00~14:00

3/30 岩倉高校

委員会・部会実施状況

競技運営委員会は原則オンライン会議として定例開催（Zoom）、各部会は原則対面にて実施した。

会議実施状況および議事

4月26日（金）オンライン会議（Zoom）

- ・2025年度主要競技会日程（案）について
- 特に春季競技会（含む東京選手権）開催日の検討

5月16日（木）オンライン会議（Zoom）

- ・2025年度主要競技会日程について
- ・MDC（GP）の主管について
- ・2023年度決算状況（サマリー）、2024年度予算について
- ・WARECS（NT0レベル）e-Learning 修了者のWA申請について

6月30日（日）書面開催

- ・2025年度主要競技会日程について
- ・MDC（GP）について
- ・デフ陸上に関するキックオフミーティングを実施
- ・2023年度事業報告及び決算、2024年度予算共に決裁され、評議委員会に回付。
- ・WA/Level1（NAR）の修了（WA承認）数：10名（6月30日現在）

7月8日（木）オンライン会議（Zoom）

- ・9月15日、16日、駒沢競技場での競技会企画について（競技部より企画案をご説明）
- ・日本選手権（新潟）への派遣について（米岡副委員長より報告）
- ・EAA選手権（ローマ）は別途報告書展開のとおり（中深常務理事）
- ・NAR申請数：34名（内10名承認済）（6月30日現在）

8月16日（金）オンライン会議（Zoom）

- ・日清食品カップ第40回全国小学生陸上／運営会議
- ・NAKGASEカップ／JPAと打合せ
- ・トラックフェスティバル2024の選手募集について打合せ…Two Laps
- ・On Track nights… Two Laps主催、東陸主管の取り組みについて報告
- ・NAR申請について（7月末時点での修了者数等）53名
- ・東京陸協のWebサイトについて検討を開始する予定

9月19日（木）書面開催（書面開催）

- ・大規模競技会の準備会の組成について提案
- ・東京25世界陸上におけるNAR・コラボレーター選出基準およびスケジュール

- ・東京 2025 世界陸上の場内・場外担当役員の選出方法について

10 月 17 日（木）オンライン会議（Zoom）

- ・大規模競技会の準備会の組成について提案（承諾）
- ・東京 25 世界陸上における NAR・コラボレーター選出基準およびスケジュール（案）
- ・東京 2025 世界陸上の場内・場外担当役員の選出方法について

11 月 20 日（木）オンライン会議（Zoom）

- ・東京 2025 世界陸上の場内・場外担当役員の選出方法について

12 月 20 日（金）書面開催

- ・東京 2025 世界陸上の競技役員（NAR）の推薦に関して
- ・東京 2025 世界陸上の場内・場外担当役員（NAR48）の選出について

1 月 16 日（木）書面開催

- ・2024 年の競技会を振り返り、緒事項を確認・情報共有
- ・競技会申請の手続き及び記録申請のフローについて

2 月 20 日（木）オンライン会議（Zoom）

- ・記録情報用 PC のリース更新について
- ・競技会申請の手続き及び記録申請のフローについて
- ・TOKYO25 のコラボレーターについて
- ・東陸主催・主管大会の準備 PJ チームの組成（案）について
- ・関東学連の審判実技講習生を東京陸協主催競技会に受け入れる件
- ・関東学連加盟校の主催競技会への取り組み状況について、意見交換を実施
- ・WA レフェリーに関するアンケートについて

3 月 27 日（木）書面開催

- ・TOKYO25 のコラボレーターの選出と意向調査の実施状況について
- ・関東学連の審判実技講習生を東京陸協主催競技会に受け入れる件

2024年度 東京陸上競技協会 競技運営委員会 事業報告 (主要競技会)

実施期日	事業名 (競技会名)	実施場所	事業内容
4月13日(土)～14日(日)	第87回東京陸上競技選手権大会(混成競技・リレー競走)	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	(混成・リレー) 参加者 122 名 (東陸競技会) 参加者 456 名 (ライジングスター) 参加者 45 名 (審判員) 延 315 名
	第1回 東京陸協競技会 兼東京ライジングスター2024(中学棒高跳・四種競技)		
4月13日(土)	第16回 東京都中学生春季陸上競技会	八王子市上柚木公園陸上競技場	参加者 1,131 名 審判員 128 名
4月20日(土)～21日(日)	第17回 東京都中学生春季陸上競技会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 3,563 名 審判員 延 241 名
4月27日(土)～28日(日)	第87回東京陸上競技選手権大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	(東京選手権) 参加者 528 名 (ライジング) 参加者 326 名 (審判員) 延 418 名
	東京ライジングスター陸上2024		
5月4日(土・祝)～ 5日(日・祝)	第29回ジュニア陸上競技・チャレンジカップ東京	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 2,411 名 審判員 延 267 名
5月5日(日・祝)	第87回東京陸上競技選手権大会(ハンマー投)	都立大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場	参加者 5 名 審判員 20 名
6月2日(日)	第76回都民体育大会春季陸上競技大会 兼 第1回東京陸協小学生競技会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 824 名 審判員 121 名
7月15日(月・祝)	第78回国民スポーツ大会東京都代表選手選考会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 566 名 審判員 120 名
7月27日(土)	ON TRACK NIGHTS MIDDLE DISTANCE CIRCUIT	世田谷区陸上競技場	参加者 645 名 審判員 29 名
7月28日(日)	日清食品カップ東京都小学生陸上競技交流大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 805 名 審判員 151 名
8月13日(火)～15日(木)	全国高等学校定時制通信制体育大会陸上競技大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,381 名 審判員 延 477 名
8月24日(土)～25日(日)	JOC第55回U16陸上競技大会東京都代表選手最終選考会 第36回東京ジュニア陸上競技大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,115 名 審判員 延 260 名
9月8日(日)	スポーツフェスティバル東京陸上競技	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,119 名 審判員 109 名
9月15日(日)～ 16日(月・祝)	トラックフェスティバル東京2024	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 419 名 審判員 延 141 名
9月22日(日)	日清食品カップ第40回全国小学生陸上競技交流大会	国立競技場	参加者 650 名 審判員 199 名
10月5日(土)～6日(日)	みんなであつなごうリレーフェスティバル2024 第108回日本陸上競技選手権大会 リレー競技	国立競技場	参加者 1,628 名 審判員 258 名
10月5日(土)	On presents MDC FINAL in Tokyo 2024 兼 第39回東日本女子駅伝競走大会東京都代表選手選考会 駅伝プロジェクトレース	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 367 名 審判員 64 名
10月12日(土)～13日(日)	NAGASEカップ	国立競技場	参加者 2,500 名 審判員 延352 名
10月14日(月・祝)	2024グリーンリボンランニングフェスティバル	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 1,734名 審判員 92 名
10月19日(土)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街地～国営昭和記念公園	参加者 509 名 審判員 229 名
10月20日(日)	第3回東京レガシーハーフマラソン2024	東京レガシーハーフマラソンコース	参加者 14,788 名 審判員 370 名
10月26日(土)～27日(日)	第30回記念ジュニア陸上競技・チャレンジカップ東京	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 2,131 名 審判員 延258 名

11月2日(土)	第2回駒沢陸上記録会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 35 名 審判員 21 名
11月10日(日)	第19回世田谷246ハーフマラソン	世田谷246ハーフマラソンコース	参加者 1,674 名 審判員 113 名
11月17日(日)	京王駅伝フェスティバル2024	味の素スタジアム	参加者 699チーム 審判員 89 名
11月17日(日)	MINATOシティハーフマラソン2024	MINATOシティハーフマラソンコース	参加者 4,814 名 審判員 212 名
11月23日(土)	第3回駅伝プロジェクトレース	都立大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場	参加者 47 名
11月24日(日)	第29回シニア健康スポーツフェスティバルTOKYO マラソン大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者 205 名 審判員 79 名
11月30日(土) ~ 12月1日(日)	2nd World Games of Deaf Athletics Teams 2024 第21回日本デフ陸上競技選手権大会 第4回日本デフジュニア・ユース陸上競技選手権大会	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	参加者延 274 名 審判員 302 名
12月8日(日)	第5回東京クロスカントリー	立川・昭和記念公園	参加者 583 名 審判員 73 名
1月1日(水・祝)	第73回元巨鷲歩大会 兼第87回東京陸上競技選手権大会競歩大会	神宮外苑・絵画館 20km競歩路コース	参加者 312 名 審判員 115 名
1月2日(木) ~ 3日(金)	第101回東京箱根間往復大学駅伝競走	大手町競売新聞社前~箱根芦ノ湖駐車場入口	参加者 210 名 審判員 267 名
1月12日(日)	東京ニューイヤーハーフマラソン2025 (第25回ハイテクハーフマラソン)	ハイテクハーフマラソンコース	参加者 8,708名 審判員 66 名
1月26日(日)	第22回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン	新宿シティハーフマラソンコース	参加者 14,856 名 審判員 256 名
2月16日(日)	第57回青梅マラソン	青梅30km	参加者 16,933 名
2月23日(日・祝)	第78回東京都スポーツ大会 冬季大会 駅伝競走	荒川河川敷道路、堀切水辺公園	参加者 126名 審判員 71 名
3月2日(日)	東京マラソン2025	東京マラソンコース	参加者 37,954名 審判員 918 名
3月9日(日)	第14回立川シティハーフマラソン2025	立川シティハーフマラソンコース	参加者8,000名 審判員299名
3月16日(日)	2025板橋Cityマラソン	板橋Cityマラソンコース	参加者12,529 名 審判員 285 名
3月30日(日)	オール陸上競技記録会	夢の島陸上競技場	参加者 775 名 審判員 131 名

○ 2024年度及び2025年度開催競技会に関して競技会の企画及び開催準備を行った。

- ・ 競技会要項作成、競技注意事項作成、競技日程作成、会場案内図作成
- ・ エントリー受付及びとりまとめ

○ 日本陸連に対し、東京都で開催される公認競技会の申請を行った。

- ・ 2024年度公認申請について、下記のとおり追加・変更申請を15回行った。

4月17日、 5月16日、 6月16日、 7月17日、 7月26日
8月18日、 9月17日 10月18日、 11月17日、 11月26日
12月16日、 12月21日、 1月19日、 2月 2日、 2月 3日

- ・ 2025年度公認申請について、下記のとおり申請を6回行った。

2月22日、 3月1日、 3月7日、 3月13日、 3月24日、 3月31日

○ 競技部会を以下のとおり開催し、各競技会の準備報告や役割分担について協議を行った。

第 1 回競技部会	5月28日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 2 回競技部会	6月25日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 3 回競技部会	7月23日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 4 回競技部会	8月27日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 5 回競技部会	9月24日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 6 回競技部会	10月22日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 7 回競技部会	11月26日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 8 回競技部会	12月24日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第 9 回競技部会	1月28日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第10回競技部会	2月25日 (火)	東京陸上競技協会会議室
第11回競技部会	3月25日 (火)	東京陸上競技協会会議室

○スタートリストの作成

東京陸協主催大会のスタートリストの作成を競技部と連携して行った。
その他、各地域陸協等のプログラム編成作業などを随時実施した。

○記録情報部会

記録情報部会を以下の通り開催して、競技運営委員会の状況報告や記録情報部の課題検討などについて情報共有・交換を行った。

第1回	4月22日（月）	東京陸協会議室
第2回	5月22日（水）	東京陸協会議室
第3回	7月22日（月）	東京陸協会議室
第4回	8月26日（月）	東京陸協会議室
第5回	9月26日（木）	東京陸協会議室
第6回	11月25日（月）	東京陸協会議室
第7回	1月29日（水）	東京陸協会議室
第8回	3月26日（水）	東京陸協会議室

○記録公認申請

東京陸協主催・主管大会や各地域陸協等主催大会についての公認申請を実施した。

○その他

- ・記録情報部管理HP（大会情報）と東京陸協競技大会情報（HP）との調整作業を競技運営委員会の指示により行った。
- ・記録情報部管理HP（大会情報）は、随時適切な管理運用により、必要な情報を適時的確に提供を行っている。
- ・駒沢競技場配備の記録情報システム機器の更新を行った。

○審判編成に関して

- ・メールによる審判委嘱方式も約4年が経過し、ほぼ定着してきたようで回答も迅速に行われるようになった。ただし、大会が重複しているため欠席回答が多く、編成に苦慮した。

また審判部署によっては、特定の範囲に委嘱が固定されていて、同じ審判員が何度も競技役員に入ることがあったので、広く委嘱する必要があると感じた。

来年度からは全体像が見えるように半期ごとに事前意向調査を行うようにする。

○2025年審判講習会に関して

- ・今年の審判講習会は6回の大きな会場を使用し既得者・新規者講習を実施。また土曜日は1回東陸の会議室を使用し2部構成で既得者講習を実施した。夜の部は既得者に対して9回間東陸で実施した。新B取得講習参加者は99名であった。
- ・申し込みもメールで実施したが、この方式にも慣れてきたようで、当日参加者はほぼいなくなった。今回も昨年同様、大島会場で実施した。

○競技会における審判員の運用技術に関して

- ・東京マラソンでボランティアに対して暴言を吐いた審判員がいて嚴重注意を行った。
- ・高校関東大会で競技者系の審判員に対して暴言を吐いた審判員がいて、主任から苦情が寄せられたため、石井と寺尾先生の両名で即刻活動をやめさせ帰宅させた。
- ・B級を中心とした若手育成にも今後努めていく必要があると感じた。また、各部署の研修や講習会、勉強会も実施していかなければならないと考えている。

○その他

- ・関東学連からの運営協力（審判編成）についての基本的な考え方、審判依頼の手順・費用などの内容の検討を行った。
- ・また、2025年度から東陸主催の新B研修大会において、関東学連から審判研修生を受け入れる方向で確認した。

【審判部会】

第1回	5月27日（月）
第2回	6月20日（木）
第3回	8月 5日（月）
第4回	10月18日（金）
第5回	12月23日（月）
第6回	1月30日（木）
第7回	2月13日（木）

※2月の部会では競技規則修改正の周知を審判部員に実施した。

※審判講習会は大会場6会場（武蔵野市・青梅市・港区②・立正・岩倉）、東陸事務所で9回実施。大島で既得・新規講習会を実施した。

受講者内訳

【受講者総数 1,500 名】

【既得者合計 1,402 名：S級 370 名：A級 383 名：B級 649 名】【新B級 98 名】

東京陸上競技協会第1回競技場管理部会

2024年4月17日（水）

1. 2024体制と事業計画
2. 2023年の活動状況
3. 2024年度の活動目標
4. 競技場・マラソコースの認定申請の承認について
5. その他

東京陸上競技協会第2回競技場管理部会

2024年5月15日（水）

1. 競技運営委員会の報告
2. 競技場・長距離競争路の検定状況
3. 各大会の準備状況と反省について
4. WRk対応の投てき物について
5. 審判講習会の内容について
6. その他

東京陸上競技協会第3回競技場管理部会

2024年6月26日（水）

1. 競技運営委員会の報告
2. レガシーマラソンについて
3. 審判講習会について
4. 競技場・長距離競走路の状況
5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

東京陸上競技協会第4回競技場管理部会

2024年7月31日（水）

1. 競技運営委員会の報告
2. 日本陸連の検定員と自転車計測員の東京陸協からの推薦について
3. 審判講習会について
4. 競技場・長距離競走路の状況
5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

東京陸上競技協会第5回競技場管理部会

2024年9月13日（金）

1. 競技運営委員会の報告
2. 駒沢競技場の現状について
3. 審判講習会について
4. 競技場・長距離競走路の状況

5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

東京陸上競技協会第 6 回競技場管理部会

2024 年 11 月 11 日（水）

1. 競技運営委員会の報告
2. レガシーハーフの結果について
3. 審判講習会について
4. 競技場・長距離競走路の状況
5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

東京陸上競技協会第 7 回競技場管理部会

2025 年 1 月 14 日（水）

1. 競技運営委員会の報告
2. 元旦競歩について
3. 審判講習会について
4. 競技場・長距離競走路の状況
5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

東京陸上競技協会第 8 回競技場管理部会

2025 年 3 月 31 日（月）

1. 競技運営委員会の報告
2. 2025 年度の部員の構成について
3. 審判講習会について
4. 世界選手権マラソンについて
5. 大会の反省、準備状況について
6. その他

国スポ強化部はメイン事業である佐賀国民スポーツ大会に向けて、国スポ選考競技会、選考会議を経て選手29名を選考した。本大会までに2回の合宿を実施し大会に臨んだ。

本大会では天皇杯で81.5点を獲得し第8位、皇后杯は46.5点を獲得し第7位という成果を収めた。

駅伝強化部(駅伝プロジェクト)の事業は、昨年に引き続き夏季強化合宿を実施し、中高生が参加し強化を図った。今年度が最後の開催となる東日本女子駅伝競走大会で、最後の優勝チームを狙い、『連覇』を目指したが第3位と惜しくも連覇とはならなかった。

都道府県対抗駅伝では、男女ともオール東京出身選手でチームを組むという、本来の理想となるチーム編成で臨んだが、力及ばず皇后杯女子駅伝は第14位。天皇杯男子駅伝は東11位という結果となった。次年度以降もこのオール東京でのチーム編成を重要視しながら優勝を実現できるチームにしていきたい。

普及育成部の事業については、全国小学生交流大会に向けて第13回東日本都道府県小学生陸上競技交流大会に出場した。全国小学生交流大会本番では昨年に続き優勝者を輩出し、好成績を収められた。

1 国スポ強化部

①国スポ強化事業

A) 実施事業

ア) 第1回競技力向上委員会

①4/18 ②都スポ ③第1回競技力向上委員会 ④2名

⑤2024佐賀国スポに関する連絡事項を確認した。変更点確認。

イ) 第87回東京選手権 選考作業

①4/27～28 ②駒沢 ③選考作業、成年出場意志確認 ④22名

⑤ランキングを参考に、主に成年種目の選手に対し、東京代表としての意志があるか確認、調書を書いてもらった。

ウ) 第1回 国スポ強化部会

①4/28 ②駒沢 ③選考作業、成年出場意志確認 ④22名

⑤2024佐賀国スポまでのスケジュール確認と担当者の確認を行った。年末年始の合宿ついて、日程の調整を行った。

エ) 競技力向上ヒアリング

①5/30 ②都スポ ③競技力向上ヒアリング ④2名

⑤2024佐賀国スポでの目標、活躍できる選手を報告

オ) 国スポ予選 選考作業

①7/15 ②駒沢 ③選考作業、成年出場意志確認 ④21名

⑤少年の特別種目を中心に選考作業を行った。競技終了後、選手の意志確認と調書を作成した。

カ) 国スポ強化部・国スポ最終選考会議

①8/15 ②東陸事務局 ③国スポ選考会議 ④18名

⑤事前に国スポ強化部長の用意した資料委を元に普及強化委員長・委員で打ち合わせを行い、提案に沿って、選手の選考を行った。

キ) 2024佐賀国スポの国スポ局入力、都スポ提出資料作成

①8/15, 16 ②東陸事務局 ③国体データ入力作業 ④普及強化委員ほか2名

- ⑤2024 佐賀国スポ局に送る資料の入力と、都体協への提出の書類の整理と確認。
- ク) 2024 佐賀国スポスタッフミーティング (監督会議)
- ①8/27 ②都スポ ③佐賀国スポスタッフミーティング ④2 名
- ⑤佐賀国スポに向けて、主にドーピングについて説明があった。
- ケ) 2024 佐賀国スポ最終エントリー (体協登録)
- ①8/26 ②都スポ ③佐賀国スポ最終エントリー ④2 名
- ⑤滞りなく順調に作業を終えることができた。
- コ) 2024 佐賀国スポ一次合宿・アンチドーピング講習会
- ①8/24~25 ②NTC ③2024 佐賀国スポ第一次合宿 ④26 名
- ⑤少年種目選手を中心に第一次合宿を行った。練習以外に、アンチドーピング講習会 (オンライン)、コンディショニングチェックを行った。大きな怪我等もなく、無事に終了することができた。
- サ) 2024 佐賀国スポ結団式
- ①9/21 ②都庁 ③2024 佐賀国スポ結団式 ④ 5 名
- ⑤中体連のスタッフと選手が参加、無事に終了した。
- シ) 2024 佐賀国スポ二次合宿・コンディショニングチェック
- ①9/29 ②NTC ③2024 佐賀国スポ第二次合宿 ④37 名
- ⑤国スポ前のコンディショニングチェックを中心に行った。事前に変更があった選手も集合。選手は大きな怪我等もなく、国スポに出場できる状況であった。
- ス) 佐賀国スポ
- ①10/9~15 ②SAGA スタジアム ③国民スポーツ大会 SAGA2024 ④選手 29 名
- ⑤選手 29 名、31 種目に出場。天皇杯獲得点 120 点と全種目の入賞を目標に掲げて臨んだ今大会だったが、天皇杯では 81.5 点を獲得し第 8 位、皇后杯は 46.5 点を獲得し第 7 位という成果を収めた。
- セ) 第 4 回 国スポ強化部会
- ①11/6 ②東陸事務局 ③国体ジュニア合宿・沖縄合宿選手選考 ④14 名
- ⑤佐賀国スポの反省と、年末年始の合宿の選手選考、スタッフの確認を行なった。
- ソ) 佐賀国スポ解団式
- ①11/23 ②都庁 ③佐賀国スポ解団式 ④ 選手 5 名
- ⑤都庁において、東京都選手団の解団式を行なった。天皇杯、皇后杯優勝という結果であった。解団式後、3 名が祝勝会にも参加した。
- タ) ジュニア強化事業全体合宿
- ①12/14.15 ②ナショナルトレーニングセンター ③ジュニア強化事業合宿
- ④選手 65 名 スタッフ 25 名
- ⑤中高生の中で、将来有望な選手を集め、強化合宿を行なった。スタッフも日本代表やクラブチーム、実業団の指導者、現役の選手も集め、充実した内容となった。
- ツ) 競技力向上委員会
- ①12/16 ②都体協 ③予算について ④ 2 名
- ⑤今年度の会計報告について説明を受けた。
- テ) 佐賀国スポ強化合宿 (沖縄)
- ①1/4~7 ②沖縄県 ③国スポ強化事業合宿 ④選手 15 名 スタッフ 5 名
- ⑤来年度の国スポ種目の選手を中心に、成年の部の選手を選考し、沖縄県で実施した。天候にも恵まれ、温暖な気候のもと、充実した練習ができた。

2 駅伝プロジェクト

A) 実施事業

ア) 各駅伝大会参加

a) 第39回東日本女子駅伝競走大会

①令和6年11月10日(日) ②福島市 ③スタッフ13名 選手14名 ④第3位

b) 皇后盃第43回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

①令和7年1月12日(日) ②京都市 ③スタッフ14名 選手14名 ④第14位

c) 天皇盃第30回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

①令和7年1月19日(日) ②広島市 ③スタッフ14名 選手12名 ④第11位

・上記3大会「優勝」を目指して強化練習会及び合宿を実施し準備したが、結果はご覧の通りであった。今年度も、昨年度と同様に中学生・高校生の力強く、積極的なレース振りが発揮されたことは評価できるものであった。また、男女ともに社会人・大学生が東京都出身者で編成できたことは、この駅伝プロジェクトの価値を証明し意義のあるものとなった。また、例年通りスタッフの献身的なサポートも十分なものであった。

イ) 駅伝プロジェクトレース

a) 第1回プロジェクトレース

①令和6年4月6日(土) ②世田谷 ③スタッフ16名 選手 男子33名、女子22名

b) 第2回プロジェクトレース

①令和6年10月5日(土) ②駒沢 ③スタッフ11名 選手 男子中学生24名
駒澤大学選手2名がペースメーカー

c) 第3回プロジェクトレース

①令和6年11月23日(土) ②大井 ③スタッフ17名 男子中学生37名、女子中学生9名 男子2名・女子2名の一般選手がペースメーカー
・今年度も各方面にご協力いただき、プロジェクトレース3回の実施に至った。ペースメーカー役の団体選手にご尽力いただき、好記録も生まれスピード練習にかわる有意義な取り組みができた。

ウ) 東日本女子駅伝競走大会東京都代表選手選考会

①令和6年10月5日(土) ②駒沢 ③スタッフ11名 女子中学3000m11名 女子高校4000m11名 ④今年度は、選考レースにおいて高校生は上位5名、中学生は上位3名を選考し、更に中学生1・2年生から最上位で先着した1名をプロジェクト選手として選考した。

エ) 3大駅伝に向けた強化練習・合宿

a) 夏季強化合宿

①令和6年8月22日(木)～25日(日) 3泊4日 ②長野県須坂市峰の原高原
宿舎 男子チーム：ホワイトイーグル 女子チーム：ペンション山羊

③1日3回練習(峰の原クロスカントリーコース、菅平高原自然館周辺 他)

特別講習会実施 i アスレティック講習 講師：石郷崗旭氏(一般社団法人3C)
ii アンチドーピング講習 講師：小竹慶子氏(スポーツファーマシスト)

④スタッフ16名 男子：高校生9名 中学生9名 女子：高校生9名 中学生6名

⑤天候不順で安全面優先で練習計画を工夫しながら実施した。「自ら考え、率先して動く姿勢、生活面 の意識向上」をポイントにし、競技力向上につながる合宿となった。

また、今回も講師を招き講習会を開催し、有意義な時間となった。

b) 冬季合宿

①令和6年12月26日(木)～28日(土) 2泊3日 ②千葉県富津市 ナカヤマイン

③1日3回練習(富津公園、富津岬ロード、富津臨海陸上競技場 他)

④スタッフ15名 男子:高校生9名 中学生4名 女子:高校生8名 中学生4名

c) 年始男子合宿

①令和7年1月5日(日)～6日(月) 1泊2日 ②千葉県富津市 ナカヤマイン

③1日3回練習(富津公園、富津岬ロード) ④スタッフ10名 高校生9名 中学生8名

d) 女子練習会

①令和7年1月4日(土)・5日(日) 2日間 ②日本体育大学健志台陸上競技場

③大会前調整練習 ④スタッフ9名 高校生6名 中学生6名

e) 男子練習会

①令和7年1月12日(日) ②一橋大学グラウンド

③大会前調整練習 ④スタッフ5名 高校生9名 中学生8名

- ・天候に恵まれ、全国男女駅伝大会直近のため、故障防止に努めつつ最大限の強化練習と調整練習を良い環境下で実施できた。また、次年度を見据えて、中学生・高校生・男女の1年生、2年生から強化選手を選抜し、エントリー選手と同様に「練習パートナー」として合宿・練習を行った。練習会場を快くお貸しいただいた日本体育大学と一橋大学、宿泊先のナカヤマインの方々に感謝申し上げたい。

オ) 結団式

a) 第39回東日本女子駅伝競走大会東京都代表団結団式

①令和6年11月5日(火) 17時半～ ②東京陸上競技協会事務所 ③スタッフ・選手20名

b) 皇后盃第43回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会東京都代表 並びに
天皇盃第30回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会東京都代表 結団式

①令和6年12月26日(木) 17時半～ ②千葉県富津市合宿宿舎「ナカヤマイン」

③スタッフ・選手20名

- ・一般(社会人・大学生)選手は、リモートあるいは、ビデオメッセージにて参加した。

カ) プロジェクト会議

a) 第1回駅伝プロジェクト会議

①令和6年4月6日(土) ②世田谷 ③年間スケジュール確認 ④スタッフ14名

b) 第2回駅伝プロジェクト会議

①令和6年7月16日(火) ②東京陸上競技協会会議室 ③夏季合宿確認、第二次強化選手選考、東日本女子駅伝東京都代表選手選考会開催の確認、第2回・3回プロジェクトレース開催要項の確認

④スタッフ17名

c) 第3回駅伝プロジェクト会議

①令和6年10月5日(土) ②駒沢陸上競技場会議室 ③第39回東日本女子駅伝東京都代表選手選考 ④スタッフ11名

d) 第4回駅伝プロジェクト会議

①令和6年12月2日(月) ②東京陸上競技協会会議室 ③第30回全国男子駅伝大会及び第43回全国女子駅伝大会東京都代表選手選考、年末年始合宿及び練習会の確認

④スタッフ 17 名及び、中体連、高体連の強化委員長

e) 第 6 回駅伝プロジェクト会議

①令和 7 年 2 月 27 日（木） ②東京陸上競技協会会議室 ③令和 6 年度駅伝に関する反省、令和 7 年度年間強化スケジュールについて ④スタッフ 18 名

B) 中止事業

ア) 6 月練習会 → スケジュール調整により中止

イ) 駅伝プロジェクトレース 9 月開催 → 10 月開催に変更

3 普及育成部

A) 実施事業

ア) 第 13 回東日本都道府県小学生陸上競技交流大会及び“日清食品カップ”小学生陸上競技交流大会東京都大会 代表選手選考

- ・ 7 月 28 日（日）駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
- ・ 代表選手選考会議 普及育成部 10 名
- ・ 下山理事長の立会いのもと、選手、保護者、クラブ代表者（コーチ）、3 者に対して普及育成部員より代表決定を伝えるとともに、東京都代表して大会へ出場する意思を 3 者に確認。それにより代表を決定した。
- ・ 出席の普及育成部全員が異議なく、両大会の代表選手を選考した。

イ) 第 13 回東日本都道府県小学生陸上競技交流大会

- ・ 8 月 3 日（土）～ 5 日（月）函館市千代台公園陸上競技場
- ・ 選手 16 名、理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長、事務局長、普及育成部 7 名
- ・ 大会では 1 種目で優勝、2 位 4 種目、3 位 2 種目、多くの選手が自己ベストを更新するなど、競技力の向上と選手同士の交流、東京代表としての自覚とチーム力を高めることができた。3 日間を通じて普及育成部のスタッフがサポートし、9 月の全国小学生交流大会に向けて貴重な経験を積むことができた。

ウ) “日清食品カップ”小学生陸上競技交流大会東京都代表選手結団式

- ・ 9 月 14 日（土）東京陸上競技協会会議室
- ・ 選手 13 名、理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長、普及育成部 7 名
- ・ 大会に向け各自の目標を確認し、チーム東京としての団結を図った。

エ) “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会

- ・ 9 月 16 日（土）～ 18 日（月）国立競技場（宿泊：新横浜プリンスホテル）
- ・ 選手 13 名、理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長、普及育成部 12 名
- ・ 大会では 9 種目中 1 種目で優勝（大会新）、2 位 1 種目、4 位 1 種目、8 位 1 種目と多くの選手が自己ベストを更新するなど例年度と同様に好成績を収めることができた。東京開催となる中で宿泊先は新横浜となることから、選手の引率、生活面でのサポート、当日は各種目で選手に普及育成部スタッフが付き、クラブの指導者と連絡を取りながら、選手のパフォーマンスを上げるよう努めた。選手の努力は勿論ではあるが、年間を通して強化練習会や中体連との合同練習会、

合宿を実施、各クラブとの連絡調整などを行うなど、地道な取組を継続することで、今回の成果を挙げることができた。

オ) スタートコーチ養成講習会東京会場①

①令和6年6月30日(日) 東京工業大学附属高等学校

- ・指導者 4名 下山良成氏 平山公紀氏 君野貴弘氏 棟方拓也氏
- ・スタッフ 3名 TACC指導スタッフ
- ・受講者 10名

カ) スタートコーチ養成講習会東京会場②・公認指導者資格更新講習会

- ・令和6年8月11日(日) 三鷹市立第四中学校
- ・スタートコーチ養成講習会
指導者 4名 平山公紀氏 君野貴弘氏 棟方拓也氏 田島直樹氏
受講者 18名(名欠席)
- ・公認指導者資格更新講習会
指導者 3名 下山良成氏 一瀬秀和氏 八幡賢司氏
受講者 4名
- ・スタッフ 5名 普及育成部及びTACC指導スタッフ
- ・陸上競技の指導に関する基本的な知識・技能を身につけ、安全で効果的な活動を提供するため「JAAF 公認陸上競技スタートコーチ」を養成するとともに公認指導者資格更新講習会を開催することで、指導者の裾野を広げることができた。

キ) 部会

- ・随時実施
4/12(金) 10名、5/24(金) 11名、6/21(金) 7名、7/24(水) 12名、
9/6(金) 11名
- ・東京陸上競技協会会議室
- ・事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。

ク) ①第7回普及育成部会 ②10/24(木) ③東京陸上競技協会会議室

④普及強化副委員長及び普及育成スタッフ 10名

⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。

ケ) ①スポーツ東京案内事業(指導者派遣) ②10/10(木) ③杉並区立五反田保育園

④普及育成スタッフ 2名 ⑤都スポーツ協会からの依頼により、自治体等へ指導者を派遣し、陸上競技の普及育成を図ることができた。

コ) ①スポーツ東京案内事業(指導者派遣) ②10/10(木) ③八王子市立片倉台小学校

放課後子ども教室 ④普及育成スタッフ 2名 ⑤都スポーツ協会からの依頼により、自治体等へ指導者を派遣し、陸上競技の普及育成を図ることができた。

サ) ①東京都小学校教員指導者講習会 ②11/3(日) ③帝京科学大学千住キャンパス

- グラウンド ④理事長、普及強化副委員長及び普及育成スタッフ2名
 ⑤東京都内小学生教員に対し、陸上競技の基礎及び練習方法の指導を行なった。
- シ) ①スポーツ東京案内事業（指導者派遣）②11/13（水） ③八王子市立泉の森義務教育学校 ④普及育成スタッフ2名 ⑤都スポーツ協会からの依頼により、自治体等へ指導者を派遣し、陸上競技の普及育成を図ることができた。
- ス) ①第8回普及育成部会 ②11/15（木） ③東京陸上競技協会会議室
 ④普及強化副委員長及び普及育成スタッフ8名 ⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- セ) ①第1回小学生陸上競技強化練習会 ②11/23（土） ③新河岸陸上競技場
 ④普及育成部スタッフ12名、参加者51名 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ソ) ①第2回小学生陸上競技強化練習会 ②12/8（日） ③上柚木陸上競技場
 ④普及育成部スタッフ12名、参加者56名 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- タ) ①第9回普及育成部会 ②12/12（木） ③東京陸上競技協会会議室
 ④普及強化副委員長及び普及育成スタッフ7名 ⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- チ) ①第3回 JAAF 公認スタートコーチ養成講習会 ②12/22（日） ③三鷹市立第四中学校 ④理事長、普及強化委員長、講師5名及び普及育成部スタッフ2名 参加者35名 ⑤活動現場において、必要最低限度の知識・技能に基づき、安全で効果的な活動が提供できる指導者を養成した。
- ツ) ①第1回小学生陸上競技体験教室 ②12/22（日） ③大田区立大森第十中学校
 ④普及強化副委員長及び普及育成部スタッフ9名 参加者39名 指導者4名
 井上直紀選手、内藤香乃選手、矢野夏希選手、鈴木真帆選手（早稲田大学）
 ⑤都内の小学生を対象に、陸上競技の楽しさを体験させ、興味・関心を高め、今後の陸上競技の競技者人口の増加を図った。また、様々な種目にチャレンジすることにより、将来、専門的に競技を続ける種目をみつけるきっかけづくりの場を設けることができた。
- テ) ①東京都ジュニア強化第一次選抜合宿 ②12/26（木）～28日（土） ③九十九里浜
 ④普及強化副委員長、普及育成部スタッフ3名、参加者6名
 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、合宿を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ト) ①第3回小学生陸上競技強化練習会 ②1/12（日） ③上柚木陸上競技場
 ④普及育成部スタッフ10名、参加者53名
 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に

技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。

- ナ) ①第10回普及育成部会 ②1/16(木) ③東京陸上競技協会会議室
④普及強化委員長、普及強化副委員長及び普及育成スタッフ9名
⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- ニ) ①第2回小学生陸上競技体験教室 ②2/2(日) ③調布市立神代中学校
④普及強化副委員長及び普及育成部スタッフ10名 参加者43名 指導者6名
豊田兼選手、大島瑠偉選手、辻湧作選手、高橋諒選手、西尾伊織(慶應義塾大学)、宮内 優氏 ⑤都内の小学生を対象に、陸上競技の楽しさを体験させ、興味・関心を高め、今後の陸上競技の競技者人口の増加を図った。また、様々な種目にチャレンジすることにより、将来、専門的に競技を続ける種目をみつけるきっかけづくりの場を設けることができた。
- ヌ) ①第4回小学生陸上競技強化練習会 ②2/9(日) ③夢の島陸上競技場
④普及育成部スタッフ12名、参加者52名 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ネ) ①第3回小学生陸上競技体験教室 ②2/11(火) ③杉並区立松溪中学校
④普及強化副委員長及び普及育成部スタッフ11名 参加者92名 指導者4名
鈴木雄太選手、櫻井愛貴選手、下元香凜選手、下村知太郎選手(東京学芸大学)
⑤都内の小学生を対象に、陸上競技の楽しさを体験させ、興味・関心を高め、今後の陸上競技の競技者人口の増加を図った。また、様々な種目にチャレンジすることにより、将来、専門的に競技を続ける種目をみつけるきっかけづくりの場を設けることができた。
- ノ) ①第11回普及育成部会 ②2/14(金) ③東京陸上競技協会会議室
④普及強化副委員長及び普及育成スタッフ7名
⑤事業計画の検討を行い、部員全員に周知、共通理解をはかり、関係部署との連携を図りながら、事業が滞りなく進められるようにしている。 今後の事業に反映せるよう、事業の実施報告と検討を行っている。
- ハ) ①第4回JAAF公認スタートコーチ養成講習会、公認指導者資格更新講習会
②2/16(日) ③あきる野市立秋川体育館及び中央公民館
④理事長、普及強化委員長、講師7名及び普及育成部スタッフ2名
スタートコーチ参加者23名、更新講習参加者15名
⑤活動現場において、必要最低限度の知識・技能に基づき、安全で効果的な活動が提供できる指導者を養成した。
- ヒ) ①JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会、公認指導者資格更新講習会
②2/22(土)～23(日) ③ナショナルトレーニングセンター
④理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長、講師8名及び普及育成部スタッフ3名 ジュニアコーチ参加者59名、更新講習参加者19名
⑤地域スポーツクラブ(スポーツ少年団を含む)、小・中・高校生の部活動において発育発達段階を考慮した、競技者育成のための基本指導ができる指導者を養成した。

- フ) ①第4回小学生陸上競技体験教室 ②3/2(日) ③三鷹市立第四中学校
 ④普及強化副委員長及び普及育成部スタッフ9名 参加者62名
 指導者5名 鈴木爽生選手、海藤夏姫選手、下元香凜選手、下村知太郎選手、高寄桃花選手(東京学芸大学)
 ⑤都内の小学生を対象に、陸上競技の楽しさを体験させ、興味・関心を高め、今後の陸上競技の競技者人口の増加を図った。また、様々な種目にチャレンジすることにより、将来、専門的に競技を続ける種目をみつけるきっかけづくりの場を設けることができた。
- ヘ) ①第5回小学生陸上競技強化練習会 ②3/9(日) ③上柚木陸上競技場
 ④普及育成部スタッフ10名、参加者52名
 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、練習会を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。
- ホ) ①小学生クラブ代表者連絡会 ②3/15(土) ③東京陸上競技協会会議室
 ④理事長、普及強化委員長、普及強化副委員長普及育成スタッフ7名 参加者31名
 ⑤登録クラブ代表者を対象に次年度普及育成活動、大会、クラブ登録等について、情報共有を図るとともに意見交換等を行った。
- マ) ①東京都ジュニア強化第二次選抜合宿 ②3/26(水)～28日(金) ③富士北麓公園富士山の銘水スタジアム及びJITリサイクルスタジアム
 ④普及強化副委員長、普及育成部スタッフ6名、参加者30名
 ⑤長期的に選手の競技力の向上を図るため、小学生期における記録上位者を対象に技術の向上と競技への意欲を高めることを目的として、合宿を開催することで、東京の将来を背負う競技者の競技力向上を図ることができた。

4 ジュニア選手育成強化事業

A) 実施事業

- ア) 東京都パフォーマンスサポート事業(メディカルチェック)
 ①6月23日 ②日本大学 ③スタッフ1名 選手9名
- イ) 東京都パフォーマンスサポート事業(パフォーマンスサポート)
 ①6月16日～19日 ②駒沢陸上競技場 ③映像・動作分析
- ウ) 高体連強化合宿
 ①12/26.27.28 ②上柚木陸上競技場 ③各種目の強化合宿
 ④選手200名スタッフ70名
 ⑤高校生で活躍が期待できる選手を集め強化合宿を行なった。

5 オリンピック候補選手強化事業

A) 実施事業

○候補選手選考・決定

豊田 兼	選手	慶応大学	110mH
山越 理子	選手	早稲田大学	200m
大川 寿美香	選手	早稲田大学	400mH
税田ジェニファー璃美	選手	甲南大学	100m

6 U16日本選手権選手選考作業

A) 実施事業

ア) U16日本選手権最終予選会

- ①8月24日25日 ②駒沢オリンピック公園 ③U16日本選手権選手選考作業
④スタッフ 8名 ⑤U16日本選手権の代表選手の選考作業を実施する。本大会
優勝者だが、別の種目のターゲットナンバー目標としている選手がいる関係で、最終
選手の決定は10月となる。

B) 中止事業

なし

7 みんなでつながりリレーフェスティバル U16リレー大会の派遣選考

A) 実施事業

ア) U16リレー大会選手選考事業（予算立てなし）

- ①8月25日 ②駒沢オリンピック公園 ③4月1日よりU16日本選手権最終予選
会までの結果にてU16リレー大会の派遣選考を行い、各校選手への連絡をした。

イ) U16リレー大会ユニホーム（ジャージ）発注

※代表選手に東京都代表ジャージを東京陸上競技協会が贈呈

ウ) 代表選手練習会（大会派遣）

- ①9月22日 ②国立競技場 ③スタッフ4名 選手12名
④新宿区民大会にオープン参加し、国立競技場で練習を行う。

エ) 代表選手練習会

- ①9月21日 ②日本大学 ③スタッフ4名 選手12名
④バトンパス中心に練習。コンディショニングチェックも行った。

オ) U16リレー大会

- ①10月5日6日 ②国立競技場 ③スタッフ4名 選手12名
④男子 予選 41 “54 決勝 41” 38（第3位）
女子 予選 47 “87

1 委員会の目的

- ① 東京の陸上競技を、発展させ、普及し、強化するために、資金を集める
- ② 日本陸上界に影響を及ぼす、画期的な企画を生み出す

2 委員会の目標 1億円の効果を生み出す

3 委員会の編成

- ① マーケティング委員会 内村京子氏(東陸事務局) 浅野円歌氏(葛飾区陸協)
稲垣誠司氏(ゴールドウィン)
- ② 企画委員会 大嶋康弘氏(日本大学) 川島史章氏(博報堂)
新田良太郎氏(TWOLAPS)

4 委員会の課題

- ① それぞれの置かれた立場の理解と徹底
- ② 現在と未来の東陸に、何が必要かを共有する

5 活動

- ① 会議 5月8日(水) 18:15~19:30 内村 稲垣 新田 川嶋 浅野
- ② 会議 5月30日(木) 10:30~11:30 内村 稲垣 大島
- ③ 会議 7月3日(水) 18:30~20:15 川嶋 稲垣 新田 浅野 大島
- ④ 会議 9月6日(金) 19:45~20:15 大嶋 内村 稲垣 川嶋 新田 浅野 大島
- ⑤ 会議 2月12日(水) 14:30~15:30 稲垣 八幡 大島

会議実施状況および議事

1. 第1回組織検討委員会

2024年10月7日（月）18：30～20：00 東陸会議室（Zoom 併用）

（1）評議員・理事選出規定の見直し

① 評議員・理事定数の見直し及び女性枠の拡大方法について

② ブロック割及びブロックの定数の見直しについて

（2）専門委員会の役割と使命

（3）定年延長について

（4）今後について

2. 第2回組織検討委員会

2024年11月28日（月）18：00～19：30 東陸会議室（Zoom 併用）

（1）評議員・理事選出規定の見直しについて

（2）就業規則の見直しについて

（3）給与規則の見直しについて

（4）これからの東京陸協組織運営に関する提言について

3. 第3回組織検討委員会

2025年2月27日（木）～3月1日（土） 書面による

（1）評議員・理事選出規定の見直しについて

・前回の改定案に対する一部見直しについて